

配置薬/置き薬業界の「赤と黒」問題 下痢止め剤「赤玉はら薬」と利胆・整腸剤「熊胆円」の現状

(一社) 日本置き薬協会

薬日新聞 令和5年6月7日号のコラム「冷言熱語」より転載

配置販売業界でいま最も深刻に語られているのが、配置薬メーカー製品の終売。

特に富山では、富山の配置薬メーカーの製品がどんどん終売になって、奈良などの他県メーカーの製品を取り扱わざるをえなくなって、今では「富山の薬屋です」とは言えない状況になっている、との嘆きも。

富山の薬といえば「熊の胆」の名称で親しまれてきた「熊胆円」や「赤玉はら薬」、あるいは「六神丸」だが、なじみの板状の「熊胆円」を製造するメーカーは全国で富山に一箇所(編集注/㈱日参製薬保寿堂 富山県滑川市高月町)になってしまった。発注しても全然仕入れることができない。製品の争奪合戦が続いているという。

「製造を順次再開する」と言っていた某メーカー(編集注/㈱廣貫堂)に製造を再開する兆しは、全く見えない。配置販売業者からは「ヤルヤル詐欺だ」との怒りの声も。卸関係者に「製造できないのか?しないのか?」と問うと「こちらが聞きたい」との返事。

要するに、製造してもペイするだけの数量がすぐに販売されれば、幾らでも製造するが、現実はそのから程遠い、とはメーカー関係者。たとえば「赤玉」が赤くコーティングするのがたいへん。しかも製造で使用する窯(かま)が一旦赤く染まると、洗浄してもなかなかきれいに落ちなくて、次の他製剤の製造にたいへん支障が出るという。「赤玉」製造で見積もりを求めた業界人、当該メーカー担当者から「その言い値の3倍頂ければ考えてもいい」と言われたとも。

「六神丸」のような極小粒の製品製造にしても、今使用している製造機械が故障したら製造が続けられるか覚束ないとか。

そこへ来て生薬原料価格の高騰。配置協議会ブロックなどでは、さかんに配置製品ラインアップをどうするかが話題になったりしているが、配置製品が供給されなければ配置薬業は成り立たない。「どうする配置薬だ」。



廣貫堂の熊胆円 S



日参製薬保寿堂の熊胆円
下中のSDカード状のものがイタクマと言われる製品

廣貫堂熊胆円 S 「ユウタンエン」と読み、通称「クマノイ」。製品名に「熊胆」とあるが「熊胆」は処方されてない(熊胆処方の「ホンクマ」と言われる製品が㈱キョクトウから発売されていた)。板状の小片を「イタクマ」と言う。**1日量(3個)成分** オウレンエキス 11.2mg、オウバクエキス 49.4mg、センブリエキス 14mg、ゲンチアナエキス 62mg、ダイオウエキス 40mg、ウコンエキス 26mg、アロエ 150mg、**牛胆 50mg**、アカメガシワエキス 275mg **効能・効果** 食欲不振、胃部・腹部膨満感、消化不良、胃弱、食べ過ぎ、飲み過ぎ、胸やけ、もたれ、胸つかえ、吐気等